

ばらんす

第33号

編集発行

大田原市総合政策部
政策推進課 市民協働係
〒324-8641
大田原市本町1丁目4番1号
☎ 0287-23-8701
FAX 0287-23-8748



田部井淳子さん

一人ひとりが輝く大田原のつどい2012

「重陽の節句」9月9日(日)、大田原市総合文化会館ホールに満席の市民を迎え、大田原市および大田原市女性団体連絡協議会の主催で《一人ひとりが輝く大田原のつどい2012》が開催された。テーマは《自分らしくできることから一歩ずつ》と掲げ、ぐるーぷクレソンの寸劇と登山家の田部井淳子さんによる《人生は8合目からおもしろい》と題した講演が行われた。講演では、国内外の様々な登山のエピソードや被災地東北支援ハイキング、先が見えた人生8合目(現在72歳)からの挑戦など、面白人生の一端を明るく紹介された。

人生は8合目からおもしろい



登山家 田部井淳子さん

登山家 田部井淳子さんは、白いパンツに明るいピンクのブレザー姿で、さうそうと舞台上に登場され、37年前、女性で初めてエベレストに登頂した時、35歳。これで歳が分かっちゃいますよねとの軽やかな語り口で講演が始まった。

最初はNHKで話題となった《雲上のアドベンチャー》の撮影エピソードが紹介された。この番組は名古屋放送局の内多アナウンサーと二人で、夏の北アルプスを立山から槍ヶ岳、穂高へと尾根伝いの難ルートを23日間かけ縦走した番組である。来る日も来る日も雨、風の中、登山歴1年で腰がひけた内多アナウンサーを、干し柿に塩漬けたシソを巻いた特製登山食で励まし、60キロを歩いた。最後、穂高連峰ジャンダルムから遥か立山まで続く北アルプスの眺望に、一歩一歩と歩んだ

自信が、その後、内多アナウンサーの生き方を変えたように紹介された。

山では登山装備・綿密な計画が生死を分けると解説された。大切な水は一口で3回飲んで飲む。息苦しい時は、胸を開き呼吸をするなどが紹介された。

また、被災地支援のハイキングを東北地方と首都圏で毎月交互に開催されている。被災した人たちを裏磐梯に招待し、美しい景色を散策し、野外で弁当を食べて頂いた。仮設住宅に閉じこもった気持ちを解きほぐし心から喜ばれた。

首都圏では埼玉県加須市、旧県立騎西高校に避難される双葉町の方々に招待した。参加者の住所は旧県立騎西高校内理科室、社会科室などと表記されていた。また、「風呂は仮設で、200名以上の方が利用されるので…」と言葉を濁された。せめてもと露天風呂に入れるハイキングコースを計画した、などの活動が紹介された。

続いて、人生8合目からと今後の登山計画、その他の活動を含め語られた。先が見える年代、密度の高い生き方を、と世界各国の最高峰の登攀を目指し、国連加盟国193カ国中、現在63カ国の最高峰登攀を果たし、年間約150日に渡る計画を立てられている。しかし、残りの約200日をどう生きるかと最近、同世代の女性仲間

男女共同参画出前講座 ～寸劇「子育て、孫育て」～

講演に先立って、栃木県男女共同参画地域推進員大田原市連絡会で構成された『ぐるーぷクレソン』のメンバー6人により現在、共働きの夫婦が子どもを育てる環境、課題について観客を交えた寸劇が熱演された。



と艶やかなシャンソンの舞台を、日本の伝統芸能を、と挑戦されている。講演の最後に、様々な貴重な写真をスライドで紹介された。

高齢になると「身体にガタがくる。そんなもんじゃないよー大変だよー」こんな会話が聴かれる。しかし、田部井さんは講演の中で「人生、先が見える8合目からが、実はおもしろい」とエールを送られた。

柿澤邦雄さん

柿澤邦雄さんは、電機関係の技術者として大手電機会社に36年間勤務された。

大田原市に新工場設立の際に責任者として力を尽くされた。毎春、工場周囲を飾る桜は設立当時幼木を植樹したものだといふ。

1995年、56歳で早期退職した。その後請われて、韓国京畿道亀仁市にある、(株)大陸に技術顧問として赴く。現場では電機関係製造技術の品質管理について工場の指導に当たっており、以来現在に至っている。

柿澤さんの指導により、(株)大陸は成長を遂げ、従業員は90人から150人に、年商は6億から約40億円となった。製品の4割は日本へ輸出されている。

その功績により2011年、韓国知識経済省から「長官賞」(日本の大臣賞相当)を受賞された。



花束を受け取る柿澤さん

そして韓国行きとなったのだ。現在は月1週間程度(株)大陸に滞在し、技術指導とともに、経営のコーディネート等に力を尽くしている。韓国百峰登頂を目指し(現在86峰)、その体力づくりとして毎朝7キログラムの水を背負って約1時間のウォーキングを行ったり、地域ではシニアネットのパソコン指導、いきいき男の厨房への参加・混声合唱団「コーラス・ブーケ」所属など74歳、老いを知らぬ活動の日々だ。

柿澤さんは「心臓病がその後の人生を変えた」と何度も話された。

*柿澤さんの活動について、詳しくは那須シニアネットのホームページを検索し、会員のホームページから、大田原支部「与一の里から」をご参照ください。

<http://www.nasu-senior.jp/>



厳冬の那須登山

シリーズ 輝

地域で外国で広げる生き方…。今回は
*いきいきシニア 柿澤邦雄さん
*女性自治公民館長 藤沼久子さん
おふたりの登場です。

女性自治公民館長

藤沼久子さん

藤沼久さんはガールスカウトのリーダー、大田原市女性団体連絡協議会会長、国際ソロプチミスト、茶道教授など様々な分野での活躍で知られるが、今回は那須町自治公民館長としての横顔を紹介する。

大田原市内には、168の自治公民館がある。地域と密着した自治公民館の活動は、核家族化・高齢化が進む中、地域の「コミュニティ」を深める方策として期待されている。しかし、「地域のオアシス」としての役目を果たしている公民館は極めて少ない。そんな中で、藤沼さんが館長を務める那須町自治公民館の活動には目を見張るものがあった。

取材で訪問した時は、一昨年発足した「栄町クラブ」の方々による西地区公民館お茶会に向けての「着付け教室」が行われていた。着物・帯は各人の持参で始まり、会員の中で着付けの出来る人が指導にあたっていた。なごやかに時が過ぎ、皆、きれいに着付けられて記念撮影。その後は楽しいお茶のひとと



では早期退職は何故だったのか。それは1990年代に心臓病を患い、1994年に心臓バイパス手術を受けたことに由来する。療養中、知人に誘われて那須高原に向かう。性別・年齢・職業も違う人々、会社人間だった今までは考えられない出会い。そして1500メートルの北アルプスの自然に触れた。手術後間もない体に生きる力を与えてくれる自然の治癒力を感じた。そうした人・自然との出会いから、今後は今までと違った生き方をしたいと考えるようになり、会社を退職したという。

翌春、大田原国際交流会のネパールツアーに参加。貧しいけれど生き生きと生活する人々の姿に強く心を打たれた。体を治し次のステップへと考え、これまで生きてきたことへの感謝、社会への恩返しを考えたと

きとなる。大きなテーブルに手作りのシフォンケーキと紅茶が皆の手で手際よく出される。そして料理、健康、美容と様々な情報交換の場となる。「昔はこうじゃなかった。百八十度変わったよ」、藤沼さんがやってくれたから「館長さんに声かけられちゃあ、来ない訳にいかないもんね」との言葉から藤沼さんの人柄がうかがえた。

その中で次の会は「パンフラー」となり指導者も決まった。有意義な午後のひと時である。毎週行われる会では、吊るし雛・釜の蓋まんじゅう・編ぐるみ・布草履・木目込み人形・パッチワーク・似顔絵等々その時々によって多彩な活動を行っている。

藤沼さんが館長になられたのは3年前である。それまでは副館長を務めていたが、高齢化が進む地



域に「次の世代作り」の思いを発信し、館長を引き受けることとなった。「みんなの集い」では、若い人の参加で餅つきをしたり、おじいちゃん方の参加で子供たちに昔の遊びを教えてもらい、ナイフの正しい使い方を指導してもらおうなど高齢者の知恵を子供たちに伝えている。

自治公民館というとそれぞれの公民館の地域性で活動の在り方が違ってくると思う。栄町は藤沼さんが女性館長ということ、柔らかな視線での地域との係わりが活動を活発にしていると思われる。

世代別世帯が増え自宅におじいちゃん、おばあちゃんが居るという「当たり前」の環境が無くなりつつある昨今、地域のお年寄りや子供が、お互いふれあい刺激しあって成長できる社会づくりの一端を担っていると思われる。

男女共同参画講座 ～あなたらしく～

第1回は8月2日(木)大田原市総合文化会館において「自尊感情を高めて、アサーショントレーニング」(さわやかな自己表現を)をテーマに、那須教育事務所ふれあい学習課副主幹 田代充さんを講師に迎えワークショップを行った。ワークショップは同じグループになったお互いが自己紹介後ほめ合うところから始まり、いくつかの困った場面設定で、どう自己主張するか話し合った。



第2回は9月5日(水)に「それぞれの生き方～困難の向こうに～」をテーマとして群馬県みどり市《富弘美術館》、佐野市《佐野市郷土博物館》を訪ねた。富弘美術館では、星野富弘の障害の大変さを知った上で、素晴らしい作品を鑑賞した。佐野市郷土博物館では、前日に百回忌を迎えた田中正造が足尾鉬毒問題や利根・渡良瀬両河川水害問題などでどう活動したか学習してきた。

*アサーショントレーニング…自分・相手の人権を尊重したうえで、自分の意見や気持ちをその場に適切な言い方で表現出来るようになる練習

育ジイ講座

～絵本読み聞かせのコツ～

7月22日(日)大田原市総合文化会館において、図書館ボランティアお話し会コアの高野裕子さん、荒川千史さんを講師に迎え、育ジイ講座が開催された。

「ジイのおひざでおはなし会」と題し、子や孫に絵本を読み聞かせることによる効果や絵本の選び方等をわかりやすく説明された。「自分が読んで面白い本を、楽しみながら読み聞かせてあげてください」「図書館でいろいろな本を借り、気に入った物を購入し繰り返し読んであげると良いですよ」と話された。

何冊かおすすめの本を読み聞かせてもらい、参加した子どもたちはもちろんのこと、大人たちも童心に戻り楽しい講座となった。



紙芝居で食育

毎月第4金曜日、市保健センターにおいて3歳児(3歳6ヵ月児対象)健康診査が行われます。健診の流れによつての待ち時間も、さまざまなボランティアの皆さんの参加でスムーズに行われています。そのなかで大田原市食生活改善推進委員の皆さんによる「食育紙芝居」があります。「元気になる食べ物」を動物たちと探しに行くお話です。

自我の発達が顕著で自分の意思表示ができるようになる3歳児は「今日のお昼は何を食べたか」話に参加しながら「おやつはみんなの手のひらに乗るだけだよ」とおぼえています。

また、食生活改善推進員の皆さんは市内公立保育園年長児と保護者に対し「のびのび教室」として、**体と食べ物の関係に興味をもつ基礎**を育てる活動を各園で実施しています。



お知らせ

講演会 & 海外研修報告会

平成25年1月26日(土)午後1時00分～3時45分 / 大田原市総合文化会館ホール

【講演会】『イクジイが育児を変える』(仮題)

講師 / 村上 信夫 氏【元NHKエグゼクティブアナウンサー】

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』等、NHKラジオの“声”として活躍。今年4月からは、全国を回り『嬉しい言葉の種蒔き』をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」、月刊『清流』連載対談～ときめきトーク等、新たな境地を開いている。

【海外研修報告会】『手を取りあって ～新たなあゆみ～』

サーマーバイテ

平成24年度大田原市民の海外研修派遣団『Samarbejde・協力』

女性だけではなく男性の参画を目指し、新たに始まった海外研修。男女合わせて8名の派遣団員による、デンマーク訪問の報告会です。



女性に対する暴力をなくす運動 11月12日～11月25日の2週間

《 どんな暴力でも、我慢しないで、話してみてください。 》

- 相談機関
- 大田原市 子ども幸福課 / 0287-23-8932 (月)～(金) 8:30～17:15
 - 大田原警察署 / 0287-24-0110 24時間対応
 - 認定NPO法人 ウィメンズハウスとちぎ / 028-621-9993(月)～(金) 10:00～16:00
 - とちぎ男女共同参画センター 相談ルーム(女性のための電話相談) / 028-665-8720
 - ① 一般相談 (月)～(日) 9:00～16:00
 - ② 配偶者暴力相談 (月)～(金) 9:00～20:00 (土)・(日) 9:00～16:00

男性のための 電話相談

男性の相談員が相談をお受けします。

毎月第1・第3水曜日
17:30～19:30

028-665-8724

編集 後記

イクメン、カジメン、育ジイと子育てをする男性を応援するプランが多く見られるようになりました。子育ても、仕事と家庭の両立も、また介護もお互いを思い合って、自分らしく生きていくことができたら良いですね。(藤沼)

編集委員 (五十音順)

磯 由美子 栗原 敏子 谷辺 範夫
野田 芳江 藤沼 久子